



# 2023年浜通り研修 上旬大熊組 F班

大島かれん  
北川有  
白田ひびき  
小山陽香  
杉田岳斗

# 目次

- 体験したこと、学んだこと
- 議論活動
  - 概要
  - 市民の視点
  - 技術者の視点
  - 次世代の視点
- まとめ

# 体験したこと、学んだこと

---



## ●体験したこと

- ・ 土壌や植物の試料採取
- ・ 計測のための前処理
- ・ 1F構内の見学、構内の線量管理
- ・ 住民の方々との交流、意見交換

## ●学んだこと

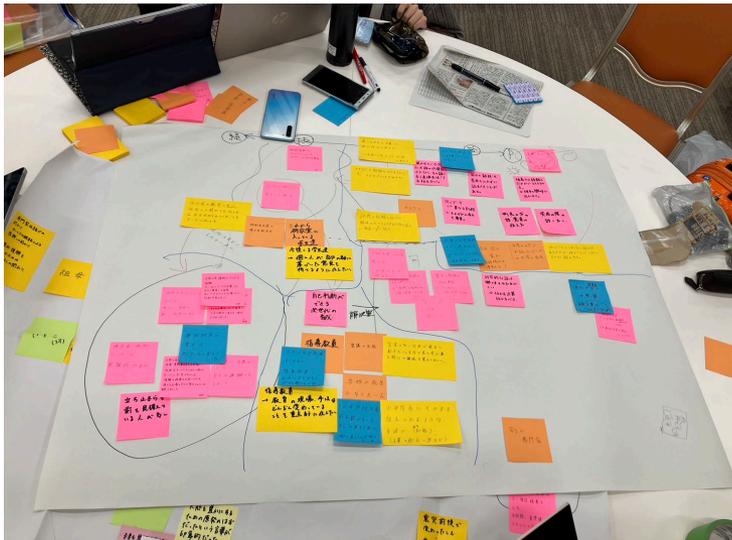
- ・ 実際に放射線量を測ってみることで測ってみることでその安全性を改めて考えた。
- ・ 住民の方々が原発、放射線をどう語るのか。



# F班議論活動の概要

市民の視点と技術者の視点

- ・ 科学者と市民との間の肌感覚の違い。  
→ 数値は分かりやすいか。  
 解釈を加えて話してもよいのか。



私たちは何を伝えるのか。

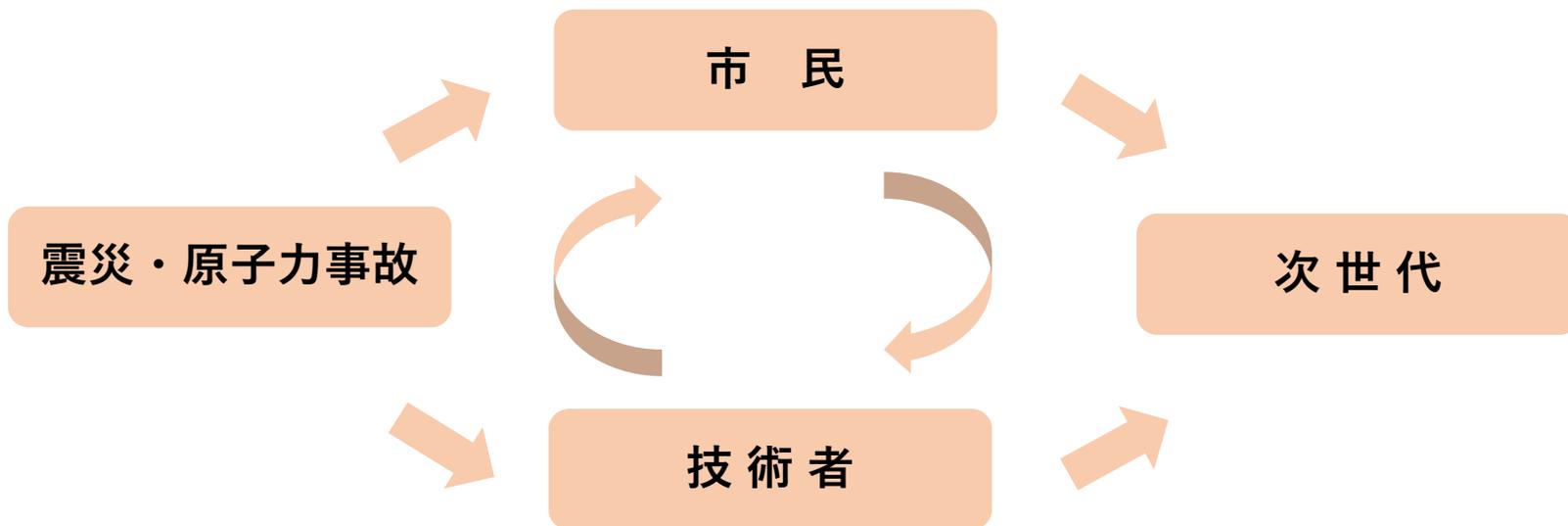
- ・ 後輩に、周囲の人に、次世代の人々に何を求めるのか。

# F班議論活動の概要



事実の捉え方や話を聞く姿勢、  
伝える方法に工夫が必要ではないか

生活に与えた影響や現状について、住民や技術者の  
立場から、次世代へ伝えるために必要なことは？



# 市民視点の議論

---

Q. 福島での体験をどう伝えるか？

A1. 放射線に関しては数値を用いて伝えることで必要以上の不安を与えないようにする

肌感覚に合わず、伝わらない人もいるのでは

A2. 聞かせていただいた方のお話を、自分の解釈を交えずに伝える

話していただいた方の表現方法に着目すると良さそう

A3. 話始めにも工夫が必要



# 市民視点の議論



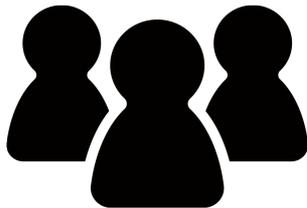
相手にどう伝わるのか、を考える



興味をもってくれる話題や分野は人によって違う



**伝える相手それぞれを尊重する**



放射線の話…

復興について…

地震の体験…



# 技術者視点の議論

---

目に見えない放射線に対して、  
大きな不安を持つ人が多い



知識を持つ技術者には、  
正確に分かりやすく伝えることが求められている



数字を伝えるだけでなく、  
技術と社会との関わりを含めて、伝える工夫が必要



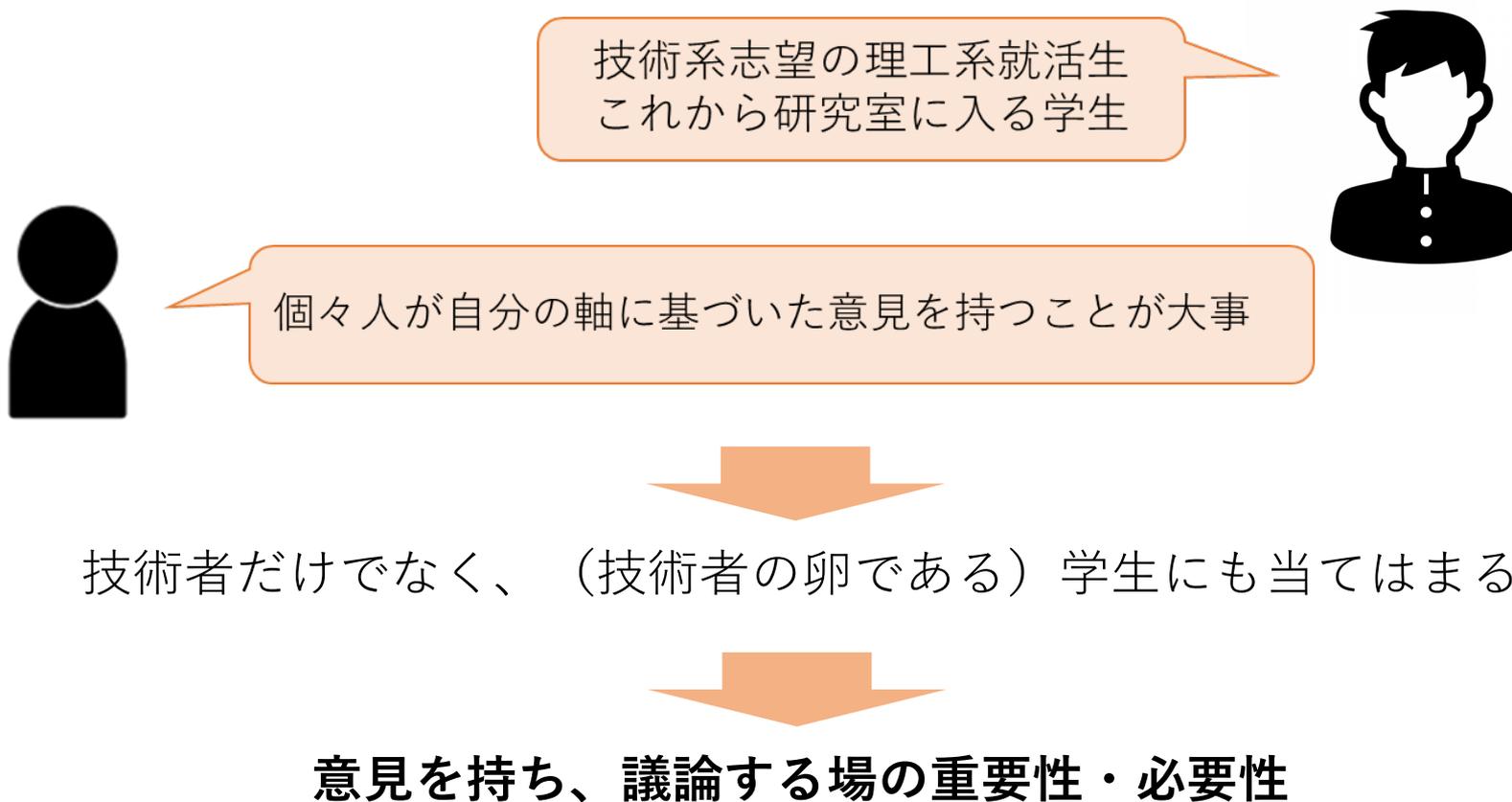
技術者には、  
科学と社会をつなげる役割が求められている



**技術者のコミュニケーション能力の重要性**

# 技術者視点の議論

---



# 次世代視点の議論

---



福島県は半径30kmぐらいのエリアで人が住めないイメージ



バイト先の塾講師の生徒（高1）

次世代を担う子どもたちへの伝承が少ないのではないか

これからも住み続ける災害の多い日本で過去に起きたことを学んで、関心を継続することが大事だと伝えたい

# 次世代視点の議論



次世代を担う子どもたちへの伝承が少ないのではないか

福島復興は、次世代の子どもたちにとって、  
大きな問題であることに変わりはない



自己判断ができる次世代の育成が必要



どういう街を作りたいかを自分で考える人材

解の無い課題を見つけて取り組める人材

# まとめ

---

- 伝えるときは、相手にどう伝わるか、相手が持つ関心を尊重することが大切
- 科学と住民を繋ぐ技術者の立場は、コミュニケーションの工夫が求められている
- 次世代の子どもへ伝え続け、自ら考えられる教育が重要
- 研修を通して、理系や専攻に限らず科学的に物事を考えて意見を持つ必要性を体感し、不安を煽る側になってはいけない

